

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	5月	27日	(記入者) 灰藤健一	
取材参加者	秋山	大谷	小倉	河添	神野
	鈴木	灰藤	東辻		
取材対象先	安堵町：極楽寺の木造聖観音菩薩立像二軀				

所在地	生駒郡安堵町東安堵1453番地				
所有者(取材 対応者)名	極楽寺 (極楽寺 * * * * 副住職) (個人情報守秘)		連絡先 0743-57-2231 (極楽寺)		
			PCアドレス		
取材申込	申込先・行政など：安堵町役場 事業課				
市町村 指定文化財	彫刻	2 軀	木造聖観音菩薩立像、木造聖観音菩薩立像 二軀とも 2018(平成30)年4月10日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	一木造の構造や衣の襞の彫り方に平安時代の特徴が窺われる貴重な資料として指定された。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	本堂は鉄筋コンクリートの強固な造りで、警備会社の感知器が備えられ、防犯と火災のセンサーが反応する。消火器も堂内に設置されている(堂内での護摩行の際に、センサーが反応したことがある)。	特に問題ないと考える。
獣害対策	被害の有無、対策など 本堂は鉄筋コンクリートの強固な造りで隙間もなく、仏像には影響はない。	特に問題ないと考える。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	以前は、愛染明王が存在したが、今はその一部が赤い光背と劔だけが残っている。また、1987(昭和62)年に本堂を建て直したときには、廃仏毀釈の時に埋められたと思われる数奇な運命の仏像が多数、土の中から出てきたという。境内にはその多くの仏像(石像)が並んでおり、大切に保管されている。本堂は鉄筋コンクリートで改修されたため、住職からは、地震があったら本堂に入れと言われてるように、耐震については問題ないと思われる。現在の建物には旧堂の天井の一部や柱が転用されて残っており、殺風景と思えるコンクリートの内壁にも、趣のあるインパクトを与えている。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

以前は檀家さんが多くいらっした様だが、その後、近隣の寺に移られたと聞いた。少ない檀家(数軒)からのお布施は期待できず奉仕のみで、葬儀や水子供養、永代供養等が主要財源として寺の維持管理が行われている。安堵町の歴史資料館で極楽寺所有の膨大な歴史資料を整理してもらい、毎年そのリストを頂いている。それにより、過去の法要や仏像の流行、仁和寺や高野山等の付き合いも分かってきている。境内で最も有名なのは広島大仏(快慶作と伝えられる)で、メディアにも多く取り上げられており、8月には原爆追悼式典が行われ特別公開されている。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2024年	5月	27日	(記入者) 灰藤健一	
取材参加者	秋山	大谷	小倉	河添	神野
	鈴木	灰藤	東辻		
取材対象先	安堵町：極楽寺の木造聖観音菩薩立像二軀				

〈写真撮影許可済み〉

文化財指定名 木造聖観音菩薩立像二軀

聖観音菩薩立像(左側)

阿弥陀如来坐像 (重文)

聖観音菩薩立像(右側)



極楽寺本堂

極楽寺山門



文化財の由緒などを記入 (安堵町史参照)

重要文化財の阿弥陀如来の左右に聖観音菩薩が並ぶ。左側の聖観音立像は、像高85.5cm 一木造、彫眼、10世紀中頃の制作。頭部も体に比べて大きく目鼻や衣の彫法は鋭く強い。伝来は、常楽寺子堂の御厨堂の本尊説がある。右側の聖観音立像は、像高76.2cm ヒノキ材の一木造で内割りはない。彫眼、頭部は小で目鼻立ちもこじんまり優しい表情。裾の衣文の彫法も定朝様式の影響下にある作品とみられ、11世紀の造像と考えられる。伝来は、極楽寺末寺東之坊の本尊説がある。

所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入

寺伝では、587(用明2)年に聖徳太子が常楽寺として建立も早々に衰退。その後、恵心僧都源信の阿弥陀様の夢のお告げにより再興、寺号も極楽寺と改める。戦国時代には、松永久秀の焼き討ちで焼失。しかし、筒井順慶により法要も再開され真言宗の僧が入り堂の修復を行う。江戸時代には本坊と六ヶ坊ができ、現在の極楽寺は東之坊の後身と伝える。本尊は阿弥陀如来坐像を安置。明治初期には神仏分離、廃仏毀釈で一時期無住寺となるも、歴代住職のご尽力によりお堂の修復・整備が終り、今に至る。